

国際農業工学レポート

農業工学でできそうなセクター間の連携（部門間、分野間、Nexus）について考えられることを述べよ。



2011年11月17日-

世界の水資源への圧力が、ますます多くの地域で持続不可能な水準に到達する中、経済開発と天然資源管理に対する「従来どおりの」アプローチは、もはや可能ではないだろうとFAOは今日述べた。

FAOは、ボンで開かれている水・エネルギー・食料安全保障に関する国際会議の出席者に対し、農業は持続可能な水管理を実施するのに鍵となるだろうと述べた。

引用元:<http://www.fao.or.jp/detail/article/701.html>

農業工学の主要な役目の1つに水路の整備・開発があるが、水資源の確保は人々が安定した生活をおくっていく上での最重要課題である。水資源を確保することは、食料安全保障や経済開発、エネルギー安全保障にも関わっている。

「食料、水、エネルギーを別々な事柄として扱うのを止め、争うのではなく、相乗効果を構築し、無駄を減らす機会を見つけ、また、水が共有され再利用されるような方法を見出しながら、各分野におけるニーズのバランスを取るという課題に賢明に取り組むべき時だ。」とミューラー局長は述べた。

引用元:<http://www.fao.or.jp/detail/article/701.html>

このように、すべての元となる農業分野に食料部門、水利部門、エネルギー部門それぞれのセクターが世界的に協力しようという姿勢を見せていることは非常に良い取り組みだと思う。これを、議論だけで終わらすことなく実行に移して欲しい。また、一見関わりの薄いような他部門がこの取り組みに協力することで新しいものを生み出せるように思える。例えば、農業と教育が連携することができれば、農業用水路を見学したり実際に農業体験をすることで、水の流れを理解したり食料作りの苦勞を体験することができる。こうした活動は、現在の教科書だけの教育を超え、多様な視点を持った人を育成に繋がると思う。